

徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 春の季語 中巻

FACEBOOK 投稿分

公益財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ2014 ～俳句へのいざない～』は2014年(平成26年)FACEBOOKに投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節(春・夏・秋・冬)ごとに、それぞれ3巻(上巻・中巻・下巻)にわけて刊行しております。

三月六日

今日の季語のご紹介は“スイートピー(すいとぴー)”です。

マメ科の蔓草【よみ;つるくさ】で細い茎の先に白色・桃色・紫色など上品な蝶形【(よみ;ちょうがた)意味;蝶が羽を開いた形】の花が咲きます。

三月七日

今日の季語のご紹介は“菠薐草(ほうれんそう)”です。

ペルシャやイランでは古くから栽培されたというアカザ科の青菜【(よみ;あおな)意味;緑色の葉菜。カブ・ホウレンソウなど】で茎や根は赤みを帯び、葉とともに煮物・ひたしたも・あえもの等にして食べると美味しいですね。

三月八日

今日の季語のご紹介は“目刺(めざし)”です。

イワシの干物です。たいていイワシを4~5匹ずつ目などを竹串などで刺して一連としているのでこの名がついています。

三月九日

今日の季語のご紹介は“春菊(しゅんぎく)”です。

キク科の一年草です。食用に栽培されて春に若い葉を摘みます。特有の香りが喜ばれ鍋物の具などに使います。



三月十日

今日の季語のご紹介は“引鴨(ひきかも)”です。

3月に入ると鴨は北方へと帰って行きます。

普通に見かける野鳥の中でも鴨は大型で多く群をなしております。その鴨がいなくなった池や沼は、にわかにわびしくなりますね。

三月十一日

今日の季語のご紹介は“水草生う(みくさおう)”です。

池や沼に生えて来る水草の事で3月ごろに水が冬の冷たさからヌルくなる風情をこの季語で俳句に詠みこむことができます。

三月十二日

今日の季語のご紹介は“春の雲（はるのくも）”です。

掃いた様な薄雲・ふわりと浮く綿雲や野づらを一瞬かげらすはぐれ雲など、のびやかな春の雲の事です。

三月十三日

今日の季語のご紹介は“摘草（つみくさ）”です。

野原や堤に出てヨメナ・ヨモギ・セリなどの食用野草やタンポポ・スマイレなどの草花を摘む春の遊びの事です。

三月十四日

今日の季語のご紹介は“春の炉（はるのろ）”です。

春になっても使う炉【火鉢・暖炉など暖房器具】の事です。

三月十五日

今日の季語のご紹介は“雪柳（ゆきやなぎ）”です。

バラ科。白い五弁の小花をたくさん枝につけて細いたわんだ枝に雪のように咲く事よりこの名前がついてます。

三月十六日

今日の季語のご紹介は“卒業（そつぎょう）”です。

学校の卒業式はだいたい3月に举行されます。

ひとつの事を成し遂げた安堵感や新たな旅立ち、また人との別れなど入り混じり感慨もさまざまですね。

三月十七日

今日の季語のご紹介は“春外套（はるがいとう）”です。

春に着るスプリング・コートの中で軽やかなものが多いです。

和服用の七分や半コートも含まれます。

三月十八日

今日の季語のご紹介は“薄氷（うすらい）”です。

うっすらと張った春先の氷や薄く解け残った氷の事です。



三月十九日

今日の季語のご紹介は“古草（ふるくさ）”です。
若草の中にまぎれて枯れずに冬を越して残っている草の事です。

三月二十日

今日の季語のご紹介は“雪割（ゆきわり）”です。
雪国では3～4月頃まで固まった根雪が残っております。
その根雪を〈まさかり〉や〈のこぎり〉などを使い除却する事です。

三月二十一日

今日の季語のご紹介は“春分（しゅんぶん）”です。
今日は春分の日です。
彼岸【（よみ；ひがん）意味；春分・秋分を中日（よみ；なかび）として、その前後おのおの3日にわたる1週間】の中日【意味；一定期間の真ん中にあたる日】にあたり季節の上では昼と夜の時間が同じになる日です。

三月二十二日

今日の季語のご紹介は“鱧（にしん）”です。
北海道でとれる魚として知られております。
春の彼岸のころに産卵のために大群をなして沿岸に寄せて来ます。



三月二十三日

今日の季語のご紹介は“草の芽（くさのめ）・ものの芽（もののめ）”です。
草の芽とは春になり萌え出るさまざまな草の芽の事です。
また、ものの芽は草の芽というより広義で春萌え出る草木・野菜類の芽をさします。

三月二十四日

今日の季語のご紹介は“苗札（なえふだ）”です。
花壇・鉢に種を蒔いた後に名前・品種などを書いて立てておく小さな木札の事です。

三月二十五日

今日の季語のご紹介は“春の波（はるのなみ）”です。
やさしく脈うつ浜辺の波、波の荒い海岸に砕け散る波濤【（よみ；はとう）意味；高い波】など春の鼓動をこの季語で俳句に詠みこみます。

三月二十六日

今日の季語のご紹介は“鶯（うぐいす）”です。

春になると、きれいなさえずりを聞かせてくれる代表的な小鳥。

日本中どこにでもいて人に馴れやすくペットとしても昔から親しまれております。

三月二十七日

今日の季語のご紹介は“辛夷（こぶし）”です。

モクレン科の落葉高木です。3月末より4月にかけて葉に先がけて六弁白色の大きい花を開きます。

芳香があり香料にもなります。



三月二十八日

今日の季語のご紹介は“ぶらんこ（ぶらんこ）”です。

中国より渡来したもので子供の遊び道具として公園などで見かけます。

俳句ではのどかな春の季語となっております。

三月二十九日

今日の季語のご紹介は“若草（わかぐさ）”です。

春に萌えたばかりのみずみずしい若草の事です。

三月三十日

今日の季語のご紹介は“蘆の角（あしのつの）”です。

春に水辺の泥の中から生えるアシの芽（緑色）は角のように、とがって見える様をこの季語で表現しています。

三月三十一日

今日の季語のご紹介は“花冷（はなびえ）”です。

桜の咲くころの冷えこみの事です。

四月一日

今日の季語のご紹介は“四月馬鹿（しがつばか）”です。

今日はウソを言って人をかついでも許されるとされる西洋から入った浴習がある日です。かつがれた（ウソを言われた）人をエープリル・フール【訳；四月馬鹿】と言います。



四月二日

今日の季語のご紹介は“櫨の芽（たらのめ）”です。

タラは山野に自生する落葉小高木です。鋭いトゲがあるので「鳥とまらず」などとも言われます。新芽はウドに似た味で、あえもの等にします。

四月三日

今日の季語のご紹介は“鹿尾菜（ひじき）”です。

浅い海の岩石につく海藻です。春に採取したものを干して食用とされます。

四月四日

今日の季語のご紹介は“母子草（ははこぐさ）”です。

キク科の雑草。春の七草のひとつとして「おぎょう」「ごぎょう」と呼ばれます。葉・茎は白っぽい軟毛でおおわれ4月ごろ黄色の小花を茎の上にたくさんつけます。

